

海軍ニュース：大連で建造中の空母はいつ進水するか？

漢和防務評論 20151201 (抄訳)

阿部信行

(記者コメント)

大連で建造中の中国空母の進水時期に関する記事を紹介します。
記事では、2016 年下半期或いは少し後にずれるかも、としています。漢和の記事は、旧ソ連空母の建造工期をもとに推測しています。
大連空母は、空母”遼寧”と外観がほぼ同じのようですが、海軍司令呉勝利の指示で、兵員の居住性を重視して設計されたようです。
上海で建造準備中の空母は、蒸気カタパルトを装備すると、推測されています。

KDR 香港特電：

大連造船所の造船施設、軍用ドックの動きは、多くの国家の関心の的になっている。一方大連の空母建造に関わる企業数は、2000 個に近く、秘密にすること自体不可能である。中国内部でも実際のところ堅く口を閉ざすことはなく、建造過程の概略について何度も対外説明を行っている。国際世論を誘導するために、遼寧省党委員会書記は、建造の工期は 6 年であると説明している。大連造船所の建造工程の細部が秘密に指定されていないことに KDR は関心を持った。

鋼板の切削はすでに 2 年 2 ヶ月前に始められた。2014 年 12 月、造船工業界の権威筋は KDR に対し：全て順調！と述べた。習近平も自ら関心を示し、海軍司令呉勝利は何度も視察している。また彼は、設計段階において乗員の居住性を高めるよう特に指示している。甲板の面積を増やすため、艦橋は”遼寧”に比べるとやや縮小されている。その他の基本設計はワリヤグと同じである。

呉勝利は、なぜ乗員の居住性を最優先にしたのか？その理由は、彼はロシアの空母クズネツオフ号の弱点を知っているからであろう。同号は、電力不足により艦内の暖房が不十分で、勝手に電気オープンを持ち込む乗組員もいたという。また兵員室は 3 層式で狭かった。長年ソ連の艦船は、乗員の居住性をあまり重視せず、遠洋航海中の戦力発揮に影響した。

大連の最新の衛星写真から軍用ドック付近の状況を観察することが出来る。多くの溶接用設備が山のように積まれている。しかし KDR は次のように理解した：甲板の溶接作業、部材の組立、艦橋の建造、等々の重要な作業は今からである、と。したがって KDR の判断は：大連の新しい空母の進水時期は 2016 年の下半期か、或いはそれ以降である、と。空母は、大連工場では”精品工程”と称され、1 つ 1 つの作業工程が完了する度に軍代表の認証を得ないと前に進めないようだ。最近、習近平は軍事委員会内部の会議で、海軍の”豆腐のおから”工程を批判した。このことから大連空母の品質は厳格に統制されていることが分かる。

旧ソ連の空母クズネツオフ号の建造過程から、類似空母の建造工期が推測できる。

同号は、ソ連共産党及び部長会議が 1981 年 3 月 3 日に建造を決定した。同年 444 工場は設計図を基に鋼板の切割、建造の分担作業を開始した。これらの作業は 1.1 年かけて行われ、1982 年 4 月 1 日、正式に竜骨が設置された。その後、各部分の接合及び部材の組立、動力設備、上層建築物の組立等が行われた。この段階の作業が最も重要である。竜骨設置から進水まで 3.8 年かかった。1985 年 12 月 6 日、進水式を行った。その後は艤装である。同艦の艤装にはどのくらいの期間がかかったのか？現在の公開資料には詳細な説明が無いが、海軍に交付された時期が 1990 年 12 月 25 日であることだけは分かっている。当然、このまえに海上試験があるはずだが、しかし服役したのは 1995 年からである。

したがって基本的に一致する時間表は次の通りである：鋼板切割から進水まで 4.9 年かかっている。1989 年 11 月 1 日、ソ連のテレビは、初めて VIKTOR PUGACHYOV 操縦の SU-27K がクズネツオフに着艦したのを放映した。このことは、クズネツオフの海上試験が 1988 年前後に開始されたことを意味する。したがってクズネツオフの艤装に 3 年かかっている可能性がある。したがって工期全体はおおよそ 6.8 年である。大連空母の工期は 6 年（遼寧省党書記）とする中国造船工業界の計算は比較的厳格であると見る事が出来る。

このように分析すると、船台及びドックでの建造工期が最長のワリヤーグの建造進度と概ね同じである。竜骨設置から進水まで全体で 3 年かかっている。これは第 2 番目の空母であり、なおかつ極めて慎重である。当時のソ連造船工業はすでに相当先進的であった。通常は部分部分を個別に建造し、船台上で組み立てる方式である。江南造船所（上海）では、2 艘目の国産空母の建造準備作業が粛々に行われている。KDR は、中共江蘇省委員会が江南造船所で建造される空母の名前を”江蘇”号とするよう積極的に活動しているのを知っている。如何に命名するかは当然、最終的に中央軍事委員会が決定する。これらの動向から見ると、特に蒸気カタパルト技術など多くの技術開発はすでに完了間近と思われる。

2016 年、江南造船所は空母建造を開始するのか？高度に注目される。

以上